令和９年度

神戸大学大学院人文学研究科
博士課程後期課程

学　生　募　集　要　項

神　戸　大　学　大　学　院

人　文　学　研　究　科

R9 D

博士課程後期課程　アドミッション・ポリシー

人文学研究科は博士課程後期課程に次のような学生を求めています。

●人文学研究科博士課程後期課程の求める学生像

1．人文学諸分野に関心を持ち、既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、追究していく情熱を持っている人

〔求める要素：思考力・判断力・表現力，主体性・協働性，関心・意欲〕

2．自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を行って研究者を志す人

〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力，関心・意欲〕

3．研究者としての自覚をそなえ、自らの学術研究を学際的かつ国際的な幅広い視野のなかで展開していく意欲を持っている人

〔求める要素：思考力・判断力・表現力，主体性・協働性，関心・意欲〕

1 専攻，コース，教育研究分野及び募集人員

専　攻	コ　ー　ス	教　育　研　究　分　野	募集人員
文化構造	哲　　学	哲学，倫理学	８名
	文　　学	国文学（国語学を含む），中国・韓国文学，英米文学，ヨーロッパ文学	
社会動態	史　　学	日本史学，東洋史学，西洋史学	１２名
	知識システム論	心理学，言語学（英語学を含む），芸術学	
	社 会 文 化 論	社会学，美術史学，地理学	
合　　計			２０名

（注：上記の募集人員には，外国人特別学生を含む。）

2 出願資格

次の各号の一に該当する者とする。

(1)　修士の学位又は専門職学位を有する者（令和９年３月までに取得見込みの者を含む。）

(2)　外国において，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(3)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(4)　国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第１条第２項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者

(5)　外国の学校，第４号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の２に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(6)　文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

＊(7)　本研究科において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，令和９年３月31日までに24才に達する者

＊資格審査について

上記の出願資格(7)により出願する者については，あらかじめ同資格の審査を行いますので，出願資格審査申請書等関係所定用紙を大学院人文学研究科教務学生係へ請求のうえ，令和８年12月４日（金）午後４時までに同係に提出してください。書留速達郵便とし，封筒表面に「人文学研究科博士課程後期課程資格審査申請書在中」と朱書きすること。

審査の判定は令和８年12月14日（月）までに本人宛に通知します。

（提出書類）
- 出願資格審査申請書（本研究科所定の用紙）
- 出願資格認定調書（本研究科所定の用紙）
- 研究計画書（本研究科所定の用紙）
- 最終出身学校の修了及び成績証明書
- 推薦書（本研究科所定の用紙）
- 審査判定送付返信用封筒（長形３号，縦23.5㎝×横12.0㎝に速達用郵便切手410円を貼付し宛先を記入してください。）

資格審査により出願資格の認定を受けた者は，出願手続を出願期間内に行ってください。

（なお，この場合出願書類中の修了証明書，成績証明書は不要です。）

3 出願期間

令和9年1月7日(木)0:00～令和9年1月12日(火)16:59

※Web出願システムからの支払いを上記期間中に完了させてください

※郵送書類については令和9年1月18日(月)必着

4 出願手続

○出願方法

出願は，Web出願サイト(https://e-apply.jp/ds/kobe-u/)より手続を行ってください。 Web 出願サイトへの通信に問題がある場合は，神戸大学大学院人文学研究科教務学生係 （lkyomu@lit.kobe-u.ac.jp）に問い合わせてください。

○出願書類

＜Web出願サイトから提出する書類＞

顔写真	顔写真データ(jpeg，png，bmp または heic 形式)をアップロードしてください。 出願前3 ヶ月以内に撮影した正面，上半身，無帽，背景なしのデータをご用意ください。※加工修正したものは使用不可
検定料	30,000円 Web出願サイトより支払いを行ってください。 払込みにかかる手数料は払込人負担です。
大学院修士課程又は博士課程前期課程の修了（見込）証明書	出身大学長（研究科長）が作成したもの。外国の大学院を卒業した者は，修士の学位取得を証明する書類を併せて提出してください。
出身大学大学院研究科の成績証明書	出身大学長（研究科長）が作成したもの。
論文	出身大学院に提出した修士論文又はそれに相当する論文を「ファイルアップロード1」へアップロードしてください。いずれの場合も，併せて提出論文の要旨を日本文で3,000～5,000字程度にまとめたものを「ファイルアップロード2」へアップロードしてください。
研究計画書	研究科のホームページからダウンロードした「研究計画書」を使用し「ファイルアップロード3」へアップロードしてください。 ＊「研究計画書」は以下のURLからダウンロードできます。 https://www.lit.kobe-u.ac.jp/admission/doctor.html

アップロードする書類はPDFにして，Web出願サイト へアップロードしてください。別紙『web出願の流れ』をよく確認し，指定の箇所に該当の書類をアップロードしてください。

＜郵送での手続が必要な書類＞

Web 出願手続が完了すると印刷できる「出願用宛名用紙」を使用し，神戸大学大学院人文学研究科教務学生係（〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1）に書留速達により郵送してください。

大学院修士課程又は博士課程前期課程の修了（見込）証明書	Web出願サイトにアップロードしたものの原本を提出してください。
出身大学大学院研究科の成績証明書	Web出願サイトにアップロードしたものの原本を提出してください。

受験許可書 （職業を有するのみ）	勤務先の所属長が発行したものを提出してください。
住民票 （日本に居住する外国人の者のみ）	市区長村長の発行する住民票（在留資格，在留カード番号，有効期限が明記されたもの）を提出してください。

5 入学者選考方法

選考は，学力試験，研究計画書，修士論文（又はそれに相当する論文）及び出身大学の学長又は研究科長から提出された成績証明書等の結果を総合して行います。

(1) 学力試験　本研究科において次のとおり実施します。

① 筆記試験（100点満点） 教育研究分野の試験内容は下表のとおりです。選択ができる科目はWeb出願システムにて選択してください。

専攻	コース	教育研究分野	試験内容
文化構造	哲学	哲学	哲学・哲学史。 英語，独語，仏語，古典ギリシア語，ラテン語のうちから１か国語選択。
		倫理学	哲学・倫理学。 英語，独語，仏語，古典ギリシア語，ラテン語のうちから１か国語選択。
	文学	国文学 (国語学を含む)	国語学（日本語教育学を含む。）及び国文学
		中国・韓国文学	中国語学及び中国文学（現代中国語・中国古典文を含む。），又は韓国語学及び韓国文学。
		英米文学	英米文学
		ヨーロッパ文学	ドイツ文学，フランス文学，イタリア文学のうちから１科目を選択，及び選択した科目の外国語能力。
社会動態	史学	日本史学	日本史学（古文書を含む。）
		東洋史学	東洋史学。 中国語，アラビア語，ペルシア語，トルコ語のうちから１か国語選択。（辞書の持込可。ただし，電子辞書は不可。）
		西洋史学	西洋史関係の英文テキストを読み，その大意とそれに対する自分の考えを論述する。
	知識システム論	心理学	心理学（研究に必要な英語能力を含む。）
		言語学 (英語学を含む)	言語学（英語学・応用言語学を含む。）
		芸術学	芸術学。 英語，独語，仏語のうちから１か国語選択。（独語，仏語を選択した者は辞書の持込可。ただし，電子辞書は不可。）
	社会文化論	社会学	理論社会学，経験社会学。 英語，独語，仏語のうちから１か国語選択。
		美術史学	美術史学
		地理学	地理学（英語の問題を含む。）

② 口述試験

口述試験は個人単位で行い，筆記試験及び提出資料を参考に志望理由や入学後の修業計画等について質疑応答を行います。

(2) 試験期日

令和9年2月12日(金)	9:30~12:00	筆記試験
	14:00~	口述試験

6 合格者発表

令和9年2月19日(金)15:00(予定)

本研究科ホームページに掲載するとともに，合格者には合格通知書を郵送します。

（電話での照会には一切応じられません。）

7 入学料及び授業料

入　　学　　料　　282,000円（令和８年度実績）

授　　業　　料　前期分 267,900円（令和８年度実績）

後期分 267,900円（令和８年度実績）

（在学中に授業料改定が行われた場合には，改定時から新授業料が適用されます。）

8 個人情報の取り扱いについて

(1)　本研究科が保有する個人情報は，「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに，「神戸大学の保有する個人情報の管理に関する指針」等に基づき厳密に取扱います。

(2)　入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は，入学者の選抜（出願処理，選抜実施），合格者発表，入学手続業務，今後の入学者選抜方法及び大学教育改善のための調査・研究のために利用します。なお，調査・研究及び結果の発表に際しては，個人が特定できないように処理します。

(3) 出願にあたって提出された個人情報は，入学者の個人情報についてのみ入学後の学生支援関係（健康管理，授業料免除，奨学金申請），教務関係（学籍，修学指導）等の教育目的及び授業料等に関する業務並びにこれらに付随する業務を行うために利用します。

(4) 一部の業務を神戸大学より委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。この場合，業務を行うために必要となる限度で受託業者に個人情報を提供しますが，守秘義務を遵守するよう指導します。

9 入試情報開示について

受験者本人（合格者は除きます。）から開示請求があれば，令和９年度入試の個人の試験成績を書留郵便により郵送します。

開示する試験成績は，総合評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）で通知します。

① 請求方法　次のものを同封のうえ，必ず受験者本人が郵送により請求してください。

・令和９年度神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程の受験票

・返信用封筒（長形３号，縦23.5㎝ ×横12.0㎝）460円切手貼付，返信先宛名明記）

② 請求期間　令和９年５月１日～令和９年６月30日（必着）

③ 開示時期　令和９年７月１日以降順次，書留により郵送します。

④ 請 求 先　〒657-8501　神戸市灘区六甲台町１－１

神戸大学大学院人文学研究科教務学生係　TEL078－803－5595

10 麻しん(はしか)・風しんの感染予防措置

麻しん・風しんのワクチン接種（予防接種）・抗体検査に関する書類の提出について

神戸大学では「麻しん風しん登録制度」を定め，入学後のキャンパス内での麻しん・風しんの流行を防止するため，全ての新入生に次の①，②，③のいずれかを提出していただいています。

① 麻しん・風しんのワクチン接種を，満１歳以降にそれぞれについて２回ずつ受けたことを証明する書類（推奨）

② 過去５年以内（令和４（2022）年４月以降）に麻しん・風しんのワクチン接種を，それぞれについて１回ずつ受けたことを証明する書類

③ 過去５年以内（令和４（2022）年４月以降）に受けた麻しん・風しんの抗体検査の結果が，「麻しん・風しんの発症を防ぐのに十分な血中抗体価（下表を参照）を有していること」を証明する書類

＊ ①，②のワクチンは，麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）等の混合ワクチンでもかまいません。

＊ ①，②では，接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていることが必要です。

＊ **母子手帳**等のワクチン接種記録や**接種済証**も，接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていれば①，②の書類として使用できます。

＊ 既往歴（かかったこと）がある場合は，③を提出するか，ワクチン接種を受けて①か②を提出してください。

＊ ③では，下表の血中抗体価の測定方法と測定値が記載され，測定値が同表の判定基準を満たしていることが必要です。血液検査結果票そのものの提出でもかまいません。血中抗体価が不十分な場合には，必要なワクチン接種を受け，①か②を提出してください。

＊ ①，②，③の書類の組み合わせ，例えば麻しんについては①，風しんについては③を提出してもかまいません。

＊ 麻しん・風しんの血中抗体価が不十分にもかかわらず，病気や体質等やむを得ない事情によってワクチン接種を受けられない場合には，その旨を記載した文書（医師による証明書等）を提出してください。

＊ 上記のいずれの書類も入学試験の合否判定に用いるものではありません。

提出期限：４月入学者は新入生健康診断実施日，10月入学者は10月入学者健康診断実施日

提出先　：健康診断会場内 麻疹風疹登録受付

麻しん・風しんの発症を防ぐのに十分な血中抗体価の測定方法と判定基準

区　分	測定方法	判定基準	備　考
麻しん	IgG－EIA法 PA法 NT法	8.0以上の陽性 256倍以上の陽性 ４倍以上の陽性	３つの測定方法のうち，いずれかで陽性
風しん	HI法 IgG－EIA法	32倍以上の陽性 8.0以上の陽性	２つの測定方法のうち，いずれかで陽性（HI法を推奨）

＊ ワクチン接種歴が条件を満たす場合や追加接種する場合は，抗体検査は不要です。

＊ 血中抗体価の測定は，この表の方法によってください。

＊ 発症を防ぐのに十分な血中抗体価は，測定方法によって異なります。また，**単に抗体陽性とされる値よりは高い値**なので注意してください。

＊ 医療機関を受診する際には，必要なワクチン接種や抗体検査を受けることができるか，予め確認してください。
また，この学生募集要項を医師に提示するなどして必要な証明書を発行してもらってください。

この感染予防措置に関する問い合わせは
神戸大学保健管理センター　TEL 078-803-5245
神戸大学学務部学生支援課　TEL 078-803-5219

11 注意事項

(1) 出願手続後は，書類の記載事項等の変更，検定料の払い戻しはできません。

(2) 出願書類等に不備がある場合には，受理できないことがあるので出願前によく確認してください。

また，出願書類に不備がある場合等，出願登録時に入力された電話番号やメールアドレス宛に連絡をすることがあります。これらの確認漏れによる救済措置は行いませんので，ご注意ください。

(3) 受験に関する詳細については，出願者にメールにて送信する「受験者心得」を参照してください。

(4) 出願後に連絡先について変更が生じた場合は，速やかに連絡してください。

(5) 受験票は令和９年１月22日（金）以降Web出願サイトのマイページからダウンロードしてください。１月22日（金）を過ぎてもダウンロードできないときは，問い合わせてください。

試験当日は必ず受験票を印刷のうえ持参してください。

(6) 障害等があって，受験上の配慮を必要とする出願者は，出願の１か月前までに申し出てください。

（注） 事前申出は障害等のある方に神戸大学の現状をあらかじめ知っていただき，受験にあたってより良い方法を実現するためのもので，障害等のある方の受験を制限するものではありません。

申出の内容によっては対応に時間を要することもありますので，できるだけ早い時期に申し出てください。

(7) 一度受理した出願書類は，返却いたしません。

(8) 出願書類等に虚偽の申告をした者又は出願資格を満たすことができない者については，入学手続き完了後であっても入学を取り消すことがあります。

(9) 合格者の入学手続は令和９年３月中旬の予定です。（日時は，合格者に別途通知します。）

12 過去3年間の志願者数等一覧表

年 / 項目	令和６年	令和７年		令和８年	
			追加		追加
志願者数	26(14)	23(13)	1(1)	21(9)	1(1)
受験者数	26(14)	22(12)	1(1)	20(9)	1(1)
合格者数	18(9)	17(9)	1(1)	18(8)	0(0)
入学者数	17(8)	17(9)	1(1)	18(8)	0(0)

注）（　）は外国人特別学生を内数で示しています。

13 その他

過去３年度分の人文学研究科博士課程後期課程の入試問題を神戸大学大学院人文学研究科教務学生係で閲覧，コピーすることができます。（電話・郵送等による照会はできません。）

閲覧時間：平日（祝日・年末年始を除く月～金曜日）9：00～17：00

令和８年度 コース，教育研究分野，教員の専門分野

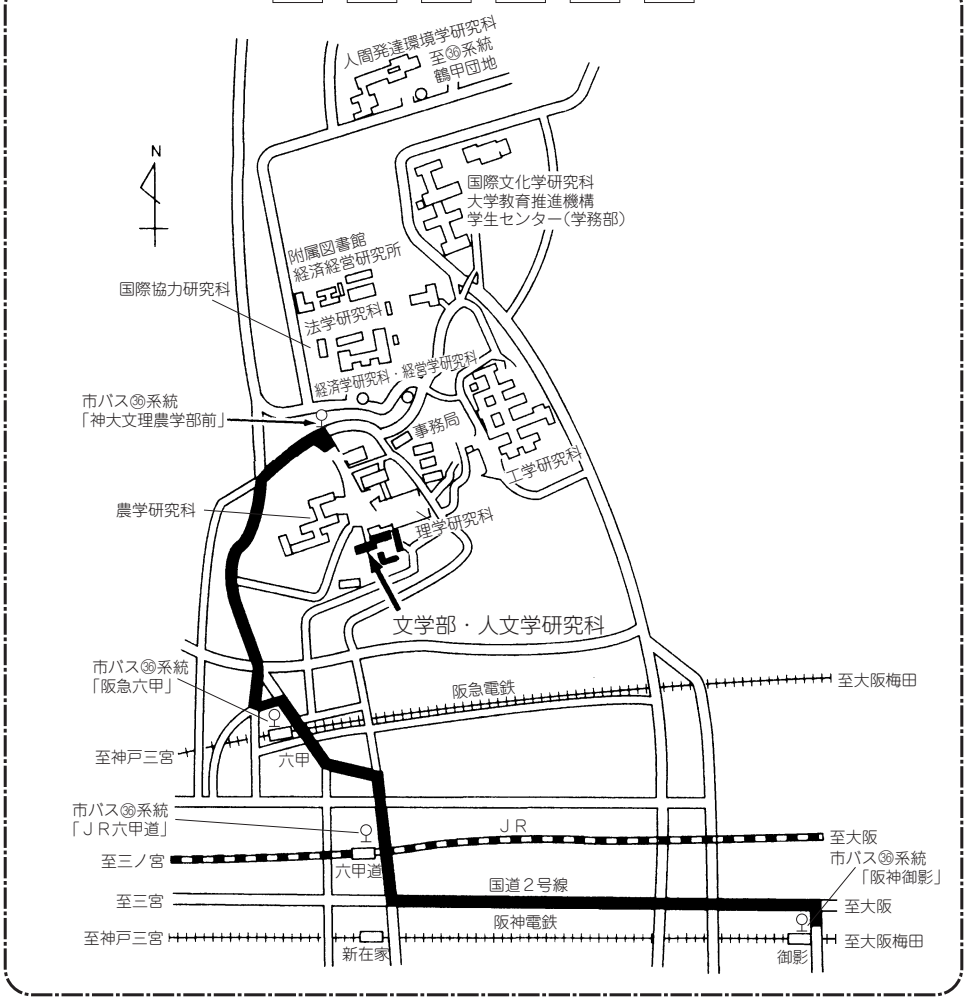
神戸大学大学院人文学研究科
（文 化 構 造 専 攻）

コース		教育研究分野		教員の専門分野	
名称	内容	名称	内容	教員名	研究内容
哲学	哲学コースは，各地域，各時代における哲学・倫理学思想を研究し，その歴史的な特殊性を明らかにするとともに，それらの思想が空間や時間の制約を離れて持ちうる普遍的な意味を探究する。あわせて，この研究によって培われた方法と知見に立って現代における哲学・倫理学思想の可能性を追求し，さらに21世紀において焦眉の課題とされる諸問題に対する解決策を提示することを目指す。また，科学の理論構成や方法を内在的に分析するとともに，科学を成立せしめている論理的かつ文化的な制約を十全に理解することで，その意義と可能性を批判的に分析する。さらに哲学・倫理学以外の専門科学との交流を求め，現代における哲学・倫理学思想の有効性を探究する。 哲学コースでは哲学・倫理学全般に対する展望と，哲学的文献を読解するための基本的技術の習得に重点を置くとともに，個別のテーマに即して専門的な教育研究を行う。加えて，現代において哲学・倫理学が担う社会的責務を十分に自覚しながら，現代的な諸問題を具体的に考察する能力を涵養する。 以上のような教育研究によって，人類の英知と価値観を学ぶことを通じて培われた洞察力を活かし，科学の発展を踏まえて，現代社会の抱える諸問題の解決へ向け的確に考察できる人を育成する。また，そうした能力を次世代にも継承させる教育能力をもった専門家を養成する。	哲学	哲学コースの特色は，自由闊達な精神と旺盛な批判精神にある。古代ギリシアから現代哲学まで広範かつ多様な研究領域をカバーできる豊富なスタッフを擁するため，個人指導も徹底できる。哲学・倫理学の在籍者全員と全教員が参加する合同演習もあり，修士・博士論文の作成などに大きな効果を発揮している。さらに，「哲学懇話会」は機関誌『愛知』の定期的な刊行などを行っている。修了後は，研究者の道に加え，マスコミ・出版関係をはじめとする一般企業で活躍する学生が増えている。	茶谷　直人	ギリシア哲学・倫理学，および生命医療倫理学
				新川　拓哉	現代分析哲学
				ｼﾞﾐｰ･ｴｲﾑｽﾞ	科学哲学・アメリカ哲学
		倫理学	人間と社会の在り方が未曾有の変容を遂げつつある現在，「生き方の学的探求」としての倫理学には，様々な問題の原理的捉え直しと，新たな共生のビジョンを描き出す「倫理創成」が求められている。倫理学分野では，哲学分野とも連携しつつ，古典的な規範倫理学，道徳的概念の分析を行うメタ倫理学，科学技術や医療といった現代的問題に取り組む応用倫理学まで幅広く研究が行われている。また，生命・環境・工学などをめぐる問題に関し，人文学研究科のスタッフ・院生が学際的に取り組む「倫理創成プロジェクト」に参加することも可能である。	中　　真生	現代フランス哲学・倫理学
文学	文学コースは，人類が蓄積してきた文学作品を，テクスト分析の方法を基軸として，民俗学・歴史学・哲学・心理学等の隣接諸学域の成果をとりいれて，広い視野に立って深く研究する能力の涵養をはかる。その研究対象は，古代より近代に至る古典的文学作品から，現代の文学作品にまでわたる。その教育研究を通して，古典的文学作品の価値を現代に再生し，文学という最も普遍的で優れた文化的遺産を将来に継承するとともに，それぞれの文化的背景のもとに生成されつつある現代の文学作品の価値を，異文化圏に向けて発信することで，異文化理解・多文化共生の橋渡しの役割をも担う人材を養成する。 本コースは，まず，日本，中国・韓国等のアジア文学，また英・米・独・仏・伊等の西洋文学の各分野について，それぞれの研究領域が築いてきた伝統を踏まえて各領域個別の研究を発展・深化させるために，古典日本語・現代日本語・中国語・韓国語・英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語等の諸言語に関わる語学力の向上を目指す。それとともに，テクスト読解のスキルや，哲学・文学理論の応用能力等の修得を行い，人文学の基盤的な学問としての文学研究を強化する。それに加えて，各国文学を横断的に教育研究することによって，多角的な視野を持った文学研究を目指す。所属の学生には，各自の専門的研究を深化させるとともに，倫理創成プロジェクト等が提供する研究科共通科目を履修させることによって，現代社会の諸問題を広い視野から考察する方法を学ばせ，文学研究を知識基盤社会の形成に応用する能力をも涵養する。 以上のような教育研究方法によって，文学コースでは，古典テクスト研究能力と確かな語学力に基づく分析能力により，文学的遺産を将来に継承できる人材・文化交流の架け橋となる人材を養成する。	国文学	日本の言語文化の特質について，また日本文化を通して見た人間の普遍性について研究する。前期課程ではテキスト解析能力の鍛錬等，後期課程では高度な研究能力の涵養等を行う。 古典文学，近世・近代文学，国語学，日本語教育学の各分野に合わせて７名の教員が配置されており，学生の多種多様な研究テーマや進路志望に対応できるよう，国語国文学の諸領域をカバーしている。教員・在学生・卒業生による学会「神戸大学文学部国語国文学会」の機関誌『国文論叢』，院生の自主運営雑誌『国文学研究ノート』等，研究発表の場も豊富である。	○◎ 實平　雅夫	日本語教育・日本文化教育
				樋口　大祐	日本中世文学
				石山　裕慈	日本語史
				梶尾　文武	日本近現代文学
				有澤　知世	日本近世文学
				田中　智子	日本中古文学
				池田　來未	日本語文法
		中国・韓国文学	隣国である中国・韓国の文学と語学，及び文化背景を研究対象とする。授業は精確に一次資料を読むことを基本におきつつ，更に大胆な，オリジナリティのある解釈を施していくことを目標とする。学生の研究テーマは古典詩・小説，現代・同時代文学など多岐にわたっており，それぞれの関心に即して自由に論文執筆を進めていく。研究室は少人数で和気藹々とした雰囲気であり，交換留学などによる国際交流も活発に行われている。後期課程進学後は，博士論文執筆を第一の目標とすると同時に，学内外，また海外での研究会やシンポジウムで積極的に発言・報告してゆくことが求められている。	濱田　麻矢	中国現代文学
				○◎ 朴　　鐘祐	日韓比較文学
				早川　太基	中国古典文学
				☆ 袁　　一丹	中国現代文学
		英米文学	英米文学では，広く西洋文学を視野に入れつつ，イギリス及びアメリカの文学を教育研究の対象とする。文学テクストの生命ともいえる言葉そのものへの深い関心のもとに，文学テクストとしての英語，及び，文学をとりまく歴史的・社会的・文化的コンテクスト（文脈）への深い理解を養成し，テクスト（言葉）とコンテクスト（文脈）の交錯の彼方に，文学の存在を探求する。 博士後期課程では，文学テクストの精緻な読解に加えて，先行研究の検証・批判と学術論文作成の訓練を行い，研究者の養成を目指す。	◇ 山本　秀行	現代アメリカ小説・演劇
				芦津　かおり	シェイクスピア・イギリス演劇
				奥村　沙矢香	20世紀イギリス小説
				平川　　和	現代アメリカ小説
		ヨーロッパ文学	ドイツ文学，フランス文学，イタリア文学からなるヨーロッパ文学では，それぞれの言語や文化に対する深い理解をめざした講義や研究指導が行われる。授業では，テクストの正確な理解と分析をもとに，テクストを作り上げている要因を様々な方法論を駆使しつつ，多角的に考察する。修士論文や博士論文作成の指導は，少人数ゼミや密接な個別面談を通じて，きめ細かく行う。	○◎ 河合　成雄	15-16世紀イタリア思想・文学
				中畑　寛之	現代フランス文学・思想
				久山　雄甫	ドイツ思想史・日欧文化比較論
				廣田　郷士	フランス語圏文学・思想

コース		教育研究分野		教員の専門分野	
名称	内容	名称	内容	教員名	研究内容
史学	史学コースは，人類が培ってきた歴史学の方法を用いて歴史文化の発展に寄与することを共通の課題にしている。その上で，本コースでは，歴史学研究をいっそう展開させるために，文献研究のみならず，フィールドワーク手法を用いた教育研究を行うことを重視している。すなわち日本列島・アジア・欧米における地域社会をフィールドとし，それぞれの地域に固有の社会の歴史的動態を，実地調査，史料保存，聞き取り調査などを通じて明らかにする。 また日本列島における各地域・時代の言語，西欧におけるフランス語・ラテン語など，アジアにおける中国語・アラビア語などの諸語を，コースの所属学生が、自らの研究領域の広がりに応じて習得し，用いる。それによって各フィールドにおける高度な学術調査をおこない，また取り扱いに習熟を要する文書・写本史料などを扱いうる能力を養成する。さらにフィールド的手法を充実させ，歴史研究の成果を社会に還元するために，地域連携センター，海港都市研究センターと協力し，地域の歴史文化をはぐくむ史料論と方法論，歴史博物館や文書館の運営論について深化をはかる。 このように共通の方法論を修得することにより，日本史，東洋史，西洋史という各領域の研究を深化させるとともに，これらの既存の研究領域を超えて，人間の歴史を総体的に把握し，その史的ダイナミズムを解明することを可能にする。これによって，現代社会において，グローバルな領域やローカルな領域で相互に関係しながら展開する諸現象の客観的な理解をなさしめるものである。 以上のような教育研究によって史学コースでは，文献研究とフィールドワーク研究という実証的分析手法をもとに，過去から現代に至る人間行動を歴史的に理解し，日本および国際社会における歴史文化の形成に主体的に対応する人材を養成する。	日本史学	日本史学は，古代から現代にいたる，日本列島上に展開した社会と国家を，構造的，動態的に把握することを目的とする学問である。そのためには，資史料の分析読解能力，研究史に対する深い理解，日本史学の問題を歴史学全体の中で考える広い視野，が必要である。日本史学では様々な演習を通じてこれらの能力を養成に努めるとともに，具体的なフィールドを通じて歴史像を構築する営みを重視し，地域歴史遺産を保全し，活用する能力を高める実習の充実をはかっている。	古市　晃	日本古代史，王権論
				吉川　圭太	日本近現代史，社会運動史
				◎ 根本　みなみ	日本近世史
		東洋史学	東洋史学の研究対象は，広くユーラシア大陸を見据えるものであるが，とりわけ中華世界とイスラム世界を二本柱としたアプローチを試みている。学生は各自が選択する言語の写本，文書，档案史料等の原典を読みこなし，分析する能力をより一層高めることによって，異文化の多元的な刺激を受けつつ視野を広め，歴史学のスキルを身につけることが期待される。	真下　裕之	南アジア史，イスラーム史
				伊藤　隆郎	アラブ史，イスラーム学
				村井　恭子	中国古代史，古代東アジア国際関係史
		西洋史学	西洋史学は，ヨーロッパとアメリカ大陸に関わる歴史を，古代から現代までそれぞれの時代について専門的に掘り下げて研究する学問である。いずれの時代においても，研究史の的確な把握と，自己の研究テーマをより広い問題関心や研究動向の中に位置づける幅広い知識，一次史料の読解が重要であるが，それらの習得を目指して自主勉強会，院生による読書会などが行われている。近現代においてはアメリカ，アジア，日本も含めた国際的相互関係の把握にも努めている。	髙田　京比子	中世イタリア・地中海史
				小山　啓子	近世フランス史
				藤澤　潤	冷戦史，現代ドイツ・東欧・ロシア史
知識システム論	知識システム論コースは，人間の知識をシステムとして理解するために，言語を含む知的活動，感性，創造性，対人関係のような，人間に固有の高次機能の解明に取り組む。現在，知性を背後で支える必須の要件が感性や感情であるという認識が深まっている。このような知識システムの複合性を解きほぐすためには，伝統的に芸術学の分野とされてきた領域を含めた，新しいタイプの教育研究プログラムが必要不可欠である。さらに，情報科学や脳科学のような隣接科学と協同することにより，知識システム全般について総合的理解を有した人材を育成する。 そのため，心と行動の特性については，心理学実験，社会調査，行動観察のような方法を用いて，感覚や運動や思考や言語のような個人の行動メカニズム，対人関係や集団活動や文化のような複数の人間の行動メカニズムについて，実証性を重んじた教育研究をおこなう。言語現象については，音声，形態，文法，意味，語用の各側面について一般化をおこない，理論的モデルを構築することによって，自然言語の全体像を組み立てる。感性的経験については，芸術の生産と受容のシステムについての研究と教育を行い，感性や感情という知識システムの深層にある部分を解明する。 以上の教育プログラムを通して本コースでは，言語を主とする知的活動や，行動・知性を背後で支える感情・感性を，伝統的人文学の範囲を超えた科学的視点から理解し，新たな人間観の形成に寄与する人材を養成する。	心理学	心理学では，感覚，知覚，運動，学習，記憶，言語，発達，社会的行動などの人間行動と，その背景にある心理を，観察，実験，調査を通じて実証的に研究している。博士前期課程で修士論文を書いた学生は，後期課程で研究を続け専門研究者として活躍したり，前期課程修了時に就職し社会に出て活躍したりしている。人材育成にあたっては，研究成果の対外発信をとりわけ重視しており，研究成果を論文にまとめて学術誌に掲載することを前期課程から奨励し，後期課程修了までに複数の論文を国内外の学術誌に掲載するよう指導している。	野口　泰基	認知神経科学
				柳澤　邦昭	社会心理学，社会神経科学
				ﾀｰﾝ有加里ｼﾞｪｼｶ	社会心理学
		言語学	言語は人間の本質に関わる重要な現象である。この言語が，どのような構造を持ち，どのような機能を果たし，どのように習得され使われているのかを研究するのが経験科学としての言語学である。言語学には，日本語，英語など個別言語の研究とともに，音韻論，文法論，意味論，さらに，応用言語学やフィールド言語学までの幅広い分野が含まれる。理論的には生成文法や認知言語学などのいくつかのアプローチがある。神戸大学の言語学のプログラムはこれらの幅広い分野，理論をカバーする指導・研究体制をとっている。	田中　真一	音韻論，音声学
				澤田　治	意味論，語用論
				○ 波多野博顕	音声科学、音声コミュニケーション
				◎ 曠　景明	言語学（統語論・文法）
		芸術学	現代における芸術文化領域の多様化は，また人間の感性的経験の多様化でもある。本研究分野は，こうした多様化する芸術文化について，伝統的な学問研究方法をふまえた上で，新たな学問の地平を切り開き，来るべき芸術表現の理論的基礎づけを行うとともに広範な視聴覚文化の包括的研究をめざす。具体的には，芸術の各ジャンルの成立の通時的・共時的状況，素材と構成・内容と形式の相互関係，新たなメディアによる芸術形態や芸術編成の変化等を扱う。	長坂　一郎	デザイン理論
				大橋　完太郎	西洋近・現代の美学および芸術学
				小寺　里枝	芸術史・芸術理論
社会文化論	現代の社会や文化は急激な変容を経験しつつあるが，それらは既存の文明形象や伝統社会を基盤とし，そのうえに展開している。本コースでは，社会構造と文化形象とが密接な相互関連にあるという共通の視点から，変容過程にある社会・文化形象の動態を，綿密なフィールドワークをとおして，実態的・実証的に調査分析できる能力を養成しようとするものである。そのため，質的・量的調査法や統計分析の手法など社会調査の技法をそれとして修得するとともに，地理情報を地球規模でかつ同時にローカルに解析する最先端のスキルや，地図や造形文化などの図像解析能力を修得し，それらの技法によってそれぞれのフィールド調査を深化させていく能力を養成する。フィールドでの調査と，技法・研究枠組の修得との往復運動によって，現代において変化を迫られている価値や生活規範，地域・民族の固有文化，その現代的変容，美的形象の価値やその変遷，景観保全や文化遺産をめぐるさまざまなフィールドを，内在的に解明する。本コースにおけるフィールドワークは，社会的な諸制度や空間的な配置など，文献資料に限定されない社会文化のさまざまな「形象」を調査研究の素材として考究していく。その際，フィールド的手法を方法的・内容的に充実させ深化発展させていくために，海港都市研究センターや地域連携センターと協力し，グローバルな視野のもとでの調査展開と固有の地域研究と融合させ，現代における新たな社会的規範や文化の形成に寄与できる人材を養成する。	社会学	家族，農村，地域社会，都市といったコミュニティが構成する社会の基層構造を，日本，アジア，欧米の比較文化研究を通じて明らかにする。また，アソシエーション，ネットワーク，個人の創発的活動を多様に包含する現代社会が，グローバルな交流と地域的な固有性の多面的な動きのなかで形成していく新しい文化価値のありようを解明する。変動する現代社会の先端的諸現象に積極的にアプローチするとともに，近代が継承してきた社会理論への深い考究とその再構築に向けての創造的理論活動を推進する。	白鳥　義彦	フランスを中心とする社会学
				平井　晶子	家族を中心とする経験社会学，社会人口論
				佐々木　祐	地域社会学，中南米社会研究
				○ 黒田　千晴	東アジア諸国の国際高等教育政策
				梅村　麦生	理論社会学，社会学説史
				山下　泰幸	マイノリティの社会学・フランス社会研究
		美術史学	美術史学は，人類の歴史的遺産として今日まで継承され，なお創造され続けている美術作品に対して，様式の分析や図像の解釈，制作過程の解明といったアプローチを行い，それらに関わる人間の営みを明らかにする学問である。地域・時代・民族による多種多様な美術の諸相の独自性を検証し，受容再生のコンテクストに基づく実証的な方法論を展開する。そのためには多くの美術作品にじかにふれることが重要であるが，本大学院では，美術館・博物館と密接に協力し，現場を重視した実践的な教育研究を行っている。	◇ 宮下　規久朗	西洋美術史・日本近代美術史
				野田　麻美	日本美術史
		地理学	地理学は「空間」に関わる事象全般を研究対象とする間口の広い学問であるが，本研究分野はそのなかでも歴史地理学，文化・社会地理学に焦点をあてている。風景／景観やそれらが描かれた絵図や地図，場所感覚や地域アイデンティティなど生活空間における社会集団の地理的経験および文書・統計・地理情報などを対象とし，そこから様々な空間的課題を読み解いていくのである。院生の主体的なテーマおよびフィールド設定を尊重しつつ，理論・方法論的な潮流を踏まえ，フィールドワークを重視した質の高い博士論文を完成できるよう指導を行う。	原口　剛	社会地理学・都市論
				菊地　真	歴史地理学，人間と地理的環境

備考　○印はグローバルエンゲージメント教育センター所属教員を示す。
☆印は令和９年９月30日付け退職教員を示す。
◎印は令和10年３月31日付け退職教員を示す。
◇印は令和11年３月31日付け退職教員を示す。

試 験 場 案 内 図



◎市バス㊱系統「鶴甲団地」「鶴甲2丁目止り」又は「鶴甲3丁目」行を利用し，阪神御影，JR 六甲道，阪急六甲から乗車，神大文理農学部前下車。所要時間はそれぞれ約25分，約15分，約10分。徒歩の場合は，阪急六甲から約15分。

令和8年11月

神戸大学大学院人文学研究科

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町１－１
電　話（078）803－5595